

昨年度の阿蘇市人権作文集『かけはし』の作品の中から一部を紹介します。
皆さんもぜひ、家族や身近な人との関係を見つめ直し、人権や差別について話し合う機会を持ちましょう。

ひいばあちゃんのお別れひっこし

碧水小4年（現5年） 家人聖奈

新しいお家が出るまで、今までいっしょに住んでいたひいばあちゃんとお別れしなくてはならなくなりました。

いつも、ひいばあちゃんとはおふろに入る時もいっしょ、食べる時もいっしょ、ねるときもいっしょです。おふろに入っているときは、「今日、何して遊んだー？」といつも聞いてくれます。ねる時には、絵本を読んでもくれます。ごはんを食べる時には、いつもとなりで話をしてくれます。

ひっこしの前の日、わたしは、「明日から、会えなくなるね。」とひいばあちゃんに言いました。すると、ひいばあちゃんほつぺを赤くして、「会えなくなるね」と目からなみだを流しながら言いました。いっしょにかなしなみだを落としました。そして、ひいばあちゃんは、「聖奈、学校にがんばっていかんよ。」と言いました。わたしは、「わかった。」と言いました。わたしは、悲しくて、ソファアにねながら、泣いていました。すると、ひいばあちゃんが、だまって百五十円をくれました。わたしは「ありがとう。」と言いました。

わたしは、その百五十円を持って、近くの自動販売機にひいおばあちゃんがだいたいなファンタジュースを買いに行きました。それをコップに半分ずつわけました。二人ともだまっつのみました。

夕方、ばあちゃんのとらりで、ごはんを食べました。いつも話をするのに、あまり話をしませんでした。

その後、ひいばあちゃんが、「聖奈、おふろに入る？」と言ったので、わたしは、「入る。」と言いました。

「聖奈とおふろに入ると気持ちがいいねえ。」とひいばあちゃんが言いました。わたしは、初めて、こんなことを言われたので、うれしくてにこにこしていました。その夜は、ひっこしのじゅんびをしました。おそくなつたので、ひいばあちゃんねていました。ひいばあちゃんねることができなかつたので、くやしかつたです。

ひっこしの朝、ひいばあちゃんを見送ってくれました。

来年の三月には、新しいお家ができます。早く、前のようにひいばあちゃんといろんなことがしたいです。いっしょにねたいです。

ひいばあちゃん、『まっついていてね。』

おてつだいをしたこと

尾ヶ石東部小1年（現2年） 上野こうき

がっこうからかえったら、じいちゃんとおとうさんがきんじよのそうこのまわりのくさきりを。そこは、おとしよりやみんながよくとおるところなのに、くさがたくさんはえていました。

ぼくは、いえにかえって、ランドセルをおきました。そして、いそいで、じいちゃんとおとうさんのくさきりのてつだいをしにいきました。

ぼくは、おとうさんがきつたくさをくさあつめであつめました。ぼくは、いっしょけんめいにあつめました。あせがいっぱいでました。くさがたくさんあつまりました。そのあと、てでくさをかかえてもっていきました。じいちゃんのけいトラにくさをいっぱいみしました。

そして、おばちゃんのいえのそこにはこびました。うしのえさにしました。

ぼくは、じいちゃんとおとうさんは、くさをがらぼつてきつているなあとおもいました。つかれるだろうなあとおもったから、おてつだいをしました。てつだつてよかつたなあとおもいました。

そのよる、おかあさんにてつだつたことをはなしました。そしたら、おかあさんが、「すごかつたね。」といってくれました。

おかあさんにほめられて、うれしかったです。